

『リンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣に関する研究』

プロジェクト委員長 望月英隆

1. これまでの進捗状況

- 第1回委員会(平成19年1月)において、リンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣の形態学的分類、検討方法が議論され、評価方法が決定された。
- 平成19年3月より施設ごとにリンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣の病理学的評価およびデータベースの作成が開始された。検討の対象は1994年～1998年に根治度Aの手術が施行され、術後5年以上の経過観察がなされたStage I～IIIの大腸癌症例で、集積目標症例数を2000例とした。
- 第2回委員会(平成19年7月)で、リンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣を評価分類した上での問題点が議論され、評価方法の確認が図られた。
- 第3回委員会(平成20年1月)で、集積途中での中間解析結果が提示された。

2. 第4回委員会(平成20年7月)

平成20年7月3日(木) 11:00～12:00

場所：パンパシフィック横浜ベイホテル東急 B2F アドミラル

- 欠損データの補充・訂正が終了した集積データ(1682症例)に関する解析結果が提示された。
- 「脈管侵襲／神経侵襲を除くすべてのリンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣をN因子として扱うことが、stageの予後分別能から最も望ましい」との方向性が得られた。
- 施設間でのEXの陽性率に格差が存在するという問題点と、診断に関するinterobserver studyの必要性がある点が認識された。
- 欠損データが少なからず存在し、これを解決する必要があると考えられた。

3. 今後の方向性

今回の委員会での議論に基づき、①second data setでの検討の必要性、②interobserver studyの必要性を検討中である。全ての解析を平成21年中に終了し、本病巣に関する取扱い基準に関する最終結論を得る予定である。